

目利きが選ぶ今週の3冊

(★★★★これを讀まなくては損をする、★★★★読みごたえたっぷり、お薦め)
 (★★★★読みごたえあり、★★価格の価値はあり、★話題作だが、ピンとこなかった)

陣野俊史
批評家

中沢孝夫
福井県立大特任教授

野崎六助
評論家

昼が夜に負うもの

ヤスミナ・カドラ著

紛争地の人々の生活を鮮やかに描き出す作家ヤスミナ・カドラの最新作。今回は自身の故国アルジェリアが舞台。血みどろの戦争を背景に少年たちの絆を描く。藤本優子訳。(早川書房・2100円)



グローバル化経済の転換点

中井浩之著

グラフや表の作り方が素晴らしいのである。それによって日本をはじめとする各国の歩みがよくわかるのだ。世界の相互依存関係の内実が転換点をむかえているようである。(中公新書・840円)



Another

綾辻行人著

(角川書店・1900円)



ボーダー&レス

藤代泉著

(河出書房新社・1200円)



営業は感情移入

横田雅俊著

他人の置かれている状態を理解し、自分を相手の立場に置いて感情を分かち合うことを説くトップセールスの極意。大切なのは精神的な余裕だ。(プレジデント社・1143円)



黄昏の狙撃手(上・下)

スティーン・ハンター著

伝説のスナイパーを描くシリーズ最新作。老いてますます盛ん。アラ還の迫力を見よ。銃撃戦とカーチェイスは本国でやってくれるに限る。公平成幸訳。(扶桑社ミステリー文庫・各800円)



ブルーシート

浅尾大輔著

雑誌「ロスジェネ」の編集長はもと「新潮新人賞」の受賞歴もある小説家。その受賞作も収録した第1小説集だ。社会の圧力に苦しむ登場人物たちが印象的。(朝日新聞出版・1800円)



リフレクティブ・マネジャー

中原淳・金井壽宏著

(光文社新書・900円)



チャイナ・レイク

メグ・ガーディナー著

カルト教団の魔手から愛する甥っ子を守れ。この教団の過激さが半端じゃなく、迎え撃つヒロインの側も変則チーム。意外と読ませる掘り出し物の一冊。山西美都紀訳。(ハヤカワ文庫・1000円)

